西の国々

乙未春

かけ替た鈴の緒のほる螢かな　西月
明る空かゝえて鴛のねふり哉　墨巣
あらそふて夜見に出るや寒椿　寸外
嶋しまふさたにも暦見られけり　曽夢
棚に顔のせてみて居る雛かな　茶田
あれ〳〵し浪よけ垣や天の川　耕雲
倒れたる烟草花さくしくれかな　騎龍
空の透間見付た声や子規　大筥
旅先や不得手な昼寐しいらるゝ　太拳
花はかり人の提ゆく蓮かな　三蔦
照り年の露中したりしくれけり　悠々
よい嫁かいつちよこるゝ田植かな　眉山
鉞を提て通るや芥子の中　士焉
谷底やかへす声なき時鳥　俵瓜
小簞笥の上に咲けり福寿草　一楼

仮名翁

浪華

乙未春

秋たつや此日わすれぬ三日の月　林曹
白けれは夜るも見安し菊の花　五韻
置捨の手燭あかりやけしの花　蟻兄
馬ともに毛虫をよけて通りけり　祇白
菊畑や十日過ての一しまり　自楽
さそふ小鳥なくて暮けり小田の鴫　松隣
燈籠や見込わるさに釣かゆる　鼎左
顔洗ふ水もたしなし雲の峰　自龍
かんこ鳥峠の茶屋の茶もぬるし　眉岳
骨折のやうには見えぬ砧かな　一肖
二挺艪て突切る海や梅の花　一楼

仮名翁

三河　遠江

乙未春

日のさすもしらて木かけの昼寐かな　波文
並木まて町の鶯聞えけり　氷角
爪ついておとろく庭の牡丹かな　蘭所
日のあるに行燈ともす睦月かな　流芝
雨乞のうちに秋たつ山家かな　蓬宇
舟賃の定目をきく暑かな　三岳
萬歳の舞てからいふ御慶かな　東平
鉄漿つけて顔見ちかへる袷かな　筌露
紫陽花を埋て仕舞ふや麦埃　水竹
炭積て置や当分いらぬ窓　塞馬
夜ふかきに山へも入らす春の月　一楼

仮名翁

近江　伊勢

乙未春

捻れたに年号のある鳴子かな　楓下
膳立を尻にして結ふ粽かな　一嘯
瀬かはりて川中になる芒かな　石皷
きし鳴や野の幅よりも声のは、　四明
急に名のおもひ出せぬやわたり鳥　虚白
御陣屋の椴の木高し鵙の声　雀叟
宿とりの船からも来て后の月　在淵
行先は人を見当や秋の山　冨木
十六夜や山に落つく昼の雲　梅塢
浪のあと追ふや千鳥の高はしり　省吾
御築地のあたりをふくや春の風　一楼

仮名翁